

○日本の仏教宗派別信者数 (文化庁'平成10年「宗教年鑑」)

合計登録信者数4840万人①浄土真宗(親鸞)1247万人(26%) ②真言宗(空海)1211万人(25%) ③日蓮宗(日蓮)1095万人(22%)

(1)誕生～少年時代(0～19歳)

- ・誕生:1222年(鎌倉時代),現在の千葉県鴨川市小湊 父親:元武士 貫名重忠事情により流罪で漁師生活 母親:武家の娘,幼少より親の指導で学問にいそむ賢い少年だった。
- ・12歳。両親は更に勉強させるために,清澄寺(千葉・鴨川市)に入山させる。この寺は他の仏教寺院と異なり,天台宗の寺ではあるが真言宗,浄土宗,中国漢文学も学ぶ学問寺であった。
- ・16歳。この寺で「真の仏教とは」の疑問の答えを得られず,学問生から正式に仏門得度し,更に仏教の勉学に励む。

(2)青年時代(20歳～)

- ・20歳。清澄寺では日蓮の求める答えが得られないと判断し,天台宗総本山延暦寺に入山する。更にこの寺を拠点として関西地区の寺を歴訪し,寺々の経典を読破する。そして,遂に経典「法華経」に「釈迦の真実」つまり「釈迦が唯一不滅の成仏者であり,他の諸仏は釈迦の分身である」という内容にたどり着く。
- ・31歳。比叡山を下山し,清澄寺に帰郷し,寺の旭が森で日蓮宗の立教宣言をする。更に,清澄寺で「法華経」のみが正しい教えであり他宗派,真言宗・浄土宗などは邪教であると演説会をする。清澄寺は「邪教演説」に猛反発し,日蓮をこの寺から破門追放する。
- ・34歳。日蓮が首都鎌倉に赴くと,3年間国内が暴風雨,旱魃,大地震が続発する。日蓮は我が意を得たりと,『法華をないがしろにするからである』と,鎌倉の大通りで辻説法を開始する。

(3)壮年時代(38歳～)

- ・38歳。「立正安国論」を執筆し,前執権北条時康に送る。これには,正道仏教「法華経」を信仰しないと①国土に災難発生②他国の侵略があるとの警告が記載されていた。他国の侵略とは蒙古襲来の予言であった。日蓮の警告に対して幕府が無視をし続けるため,再度「立正安国論」を送り付け,浄土宗は「悪法」であると更に辻説法で攻撃を加えた。この執拗な日蓮の攻撃に浄土宗側は激怒し,日蓮の住居「松葉ヶ谷庵」を襲撃するが,日蓮は辛くも逃避する。更に浄土宗徒は,日蓮の悪口は幕府の「貞永式目」違反であると幕府に訴え,幕府は承認し,日蓮の伊豆へ流罪が決定する。
- ・39歳。伊豆の海上の岩の上に放置されるが,漁師に救済され一命をとりとめる。
- ・41歳。丁度この頃,モンゴル帝国皇帝フビライ・バーンは日本,東南アジアの征服を計画していた。日蓮の予言が的中したのである。
- ・46歳。「立正安国論」の警告を無視し続ける幕府に,今度は執権北条時宗に「立正安国論」を送り付ける。無反応な幕府に,更にその半年後3回目の「立正安国論」を送る。
- ・49歳。「立正安国論」を3度も送り,浄土宗を誹謗し続ける日蓮に,今度は律宗良観が幕府に「貞永式目」違反と訴え,佐渡への流罪が決定する。幕府は,日蓮を佐渡への護送途中,竜の口刑場で処刑を命じる。しかし,怪しくまぶしい光が到来し,処刑は中止され,予定通り佐渡へ送られる。

(4)晩年(52～60歳)

- ・52歳。以前より蒙古の使者が何度も来日しており,幕府は日蓮の「蒙古襲来」の予言に恐れおののいていた。そこで,北条時宗は日蓮を佐渡流罪から赦免し,鎌倉に呼び寄せ問いただすと,日蓮は「今年中に来る」と宣言した。事実,この年(文永11)と5年後(弘安4)に蒙古が九州に侵攻するが,幕府は十分な準備と,台風到来により大過なくこれを退ける。幕府は蒙古撃退を公言し,以降,蒙古襲来の恐怖は消失する。日蓮も以後口に出すことはなかった。
- ・日蓮は他宗派の信仰阻止と「蒙古侵攻」の警告を長年し続けたにも拘わらず,無視し続けた幕府に「心身ともに疲労し,力が尽きた」と,鎌倉を離れ身延山入山を決心する。しかし,身延山の冬は厳しく,衣類・食物が不十分な中,日蓮は持病の悪化と共に体力が衰退していく。
- ・60歳。日蓮は最後を故郷安房の国(千葉県)で迎えようと,身延山を降り,途中で信徒池上宗仲を訪問するが,体力が尽き果て池上邸で死去する。60歳であった。
- ・真の仏教を問い続け,他宗を否定し戦い,「法華経」の真実を訴え続けた60年の生涯であった。